

デジタルコンテンツとしてのデジタル教科書の配信基盤の整備について

和 4 年 4 月 2 5 日
第 2 回 令 教 科 書 ・ 教 材 ・ ソ フ ト ウ
資 の 在 り 方 ワ ー キ ン グ グ ル ー プ
資 料 4

令和3年度補正予算額 30億円

第1回WGでの意見

- ネットワークの問題も重要で、これに耐えうるインフラを実装していくことも必要である。
- 現状の課題として、1人あたり2Mbpsが実現できていない学校もある。
- デジタル教科書のデータ量を、アメリカは1冊100MB以下、韓国は20-30MBとしている。これはその国のネットワークインフラを勘案して決まったものだと聞いている。
- 一つの端末の画面でデジタル教科書と教材を使うのが難しく、挙動も重いため、デジタル教科書は使っていない。
- 子供自身が、自分の紙教科書を写真で撮り、その画像を端末の機能を使用し、機能拡張して用いている場面も見えている。端末自体の機能を活用していくことも考えられるのではないか。
- 最低限必要な機能やコンテンツを検討し、デジタルのメリットが十全になるように考えるべき。また、デジタルが紙と遜色ないことを確認していくことも重要。
- 通常学級においても、障害のある子供と一緒に活動できることを検討してほしい。
- 教科書会社の使っているプラットフォームをどのように統一するのか関心がある。
- 紙の教科書では、過学年のものが子供の手元に残り、振り返り学習ができる。デジタル教科書では、個別最適化という視点も踏まえ、どのような取扱いとすべきかも検討していきたい。
- 実証事業の中間的な結果は開示して、検討を進めてほしい。

事業の趣旨

デジタル教科書の本格的な導入に向け、実際の使用状況を踏まえた課題解決や配信方法の検証、及び将来的なコスト効率化に向けた解決策の検討が喫緊の課題となっているため、デジタル教科書の全校での活用、学習者の利便性の向上、完全供給を支えるネットワーク課題の検証、配信基盤の整備・検証を行うとともに、文部科学省としてデジタル教科書の要件定義を示し、各発行者等はそれに対応したデジタル教科書・配信方法を開発し、実証を行う。

事業の進め方

- 通信回線速度が遅い学校もある中で、デジタル教科書等が確実に届く自治体の対策を検討。
- 先進自治体等におけるネットワーク構成・通信状況を把握し、多様な接続形態を提示。
- 教科書の版下データを基に簡易な方法により作成したデジタル教科書による実証研究を実施。
- 障害のある子供にも使ってもらい使用感と機能を確認。
- 文部科学省としてデジタル教科書の要件定義を示し、各発行者及びビューア事業者はそれに対応したデジタル教科書・配信方法を開発し、実証を実施。
- 過去の学年のデジタル教科書を使用させる方式を検討すると同時に、その有用性を確認。
- 事業の進捗状況等についてWGに適宜報告し、WGの検討の材料とする。

意見を踏まえて事業を実施